

複数性のエコロジー

人間ならざるものの環境哲学

篠原雅武著

「私はモートンと現実に出会い話すことで、人は変われることを知った」
「モートンは「近代からの脱出」と言い、エコロジカルな時代はすでに始まっていると言う。人間が、人間だけで生きていくことのできていた時代が終わろうとしている」
「エコロジー思想の刷新で注目を集める思想家ティモシー・モートン。本書は、モートンの読解と解釈、そして直接の対話を通して新たな生き方を示す。現代人の生きる場そのものが「うつろの空間」と化した病理を問い、「私」が自身の身体において生じている喜びから、ヒト・モノを含む他なる存在との結びつき・共存を意識化することを複数性のエコロジーと説く。



B6判 / 307頁 / 2600円
以文社